

シリーズ「日本遺産」

第10話

今回は、尾高道おだかみちと沿線にまつわる
ことについて紹介します。

大山道「尾高道」

尾高道は、米子方面からの参詣道
で、今でこそ「跡」ですが、かつて
尾高には尾高城があり、中世以降の
交通の要所でした。

江戸時代の尾高道は、尾高城跡か
ら石田を通り、岡成の東方を出て精
進川を遡り、一の谷を通って行きま
す。途中、赤松方面からの道と合流
し、さらに約二キロ上がったところ
で丸山方面からの丸山道と合流し、
博労座へと至ります。伯耆西側及び
出雲方面からの主要道と言えます。

丸山との分岐・分けの茶屋

分けの茶屋跡は、尾高道と丸山道
の合流点で丸山から一里、赤松から
一里、そして博労座からも一里とい
う地点にあります。江戸時代中期以
降、この地に小屋掛けの茶店が立
ち、米子・丸山両方面の「分かれ」
に立つ「茶屋」ということで「分け
の茶屋」と呼ばれるようになったよ
うで、当時の参詣者にとって大切な
休憩所でした。分けの茶屋は、寛政



▲大山並木松 (町指定)

7 (1795) 年以前から、丸山村
で許可を得て開設されたと伝わりま
す。昭和12年まで経営されていまし
たが、自動車交通網の発達の影響か
ら、廃業されたようです。
昭和12年は、大山牛馬市の終焉の
年であり、この前年に大山国立公園
指定を受けています。時代の画期と
言えるかもしれません。
一町地蔵と大山並木松
県道大山米子線を通って大山寺へ
向かう道中、道沿いに佇む地蔵や松
を見る機会があるかと思えます。
これらの地蔵は、大山詣りの参詣
者のために一町(約109m)ごと
に道標として地蔵石像が置かれたも
ので、「一町地蔵」と呼ばれています。

尾高道の一町地蔵は、博労座から赤
松(大山寺領内)まで約50体、全て
信者や大山寺関係者の寄進によつて
建てられています。一町地蔵は、尾
高道に限らず、いろいろな道に置か
れており、造形も違うので、一体一
体じっくり眺めてみるのも面白いか
もしれません。

一町地蔵と同じく、赤松から博労
座にかけての道沿いに、クロマツの
巨木が点々と並んでいます。

江戸時代、大智明権現の御利益に
あやかろうと、悪天候の中でも大山
を目指す参詣者が途中で遭難する事
態が相次ぎました。「これらの人々
が厄災に遭わないように」と大山寺
中興の祖と仰がれる豪円僧正が当時
の山奉行に命じて道標として植栽さ
せたと伝われます。これらのクロマ
ツは昭和52年4月15日に町指定文化
財(天然記念物)となっています。

指定当時には、尾高道沿いと坊領
道沿いを合わせて65本ありました
が、風雪や松枯れ、老木化などの原
因により、現在は21本、坊領道沿い
の指定木は現存1本にまで減少しま
した。植物であるため、寿命が尽き
るのは否めませんが、少しでも記憶
と記録を後世に伝えていきたいもの
です。

(人権・社会教育課 文化財室)

・グラウンド・ゴルフ
基本のプレーを学びます。

・健康力アップ運動教室
ケガをしにくいからだを作りま
す。

現在、30年度の新規入会を受け付
けています。入会についてはクラブ
事務局までお問い合わせください。

◆会費(年会費)

一 般 3,000円

中学生以下 2,000円

※年会費とは別に、種目ごとに部会
費が必要です。詳しくは事務局へお
問い合わせください。

【事務局】

教育委員会事務局生涯学習室内

☎ 0859・54・5212

